**全国児童委員・主任児童委員活動研修会 参加報告**

**【1ページ目】**

**令和7年度 全国児童委員・主任児童委員活動研修会に参加して**

令和7年8月8日(木)から9日(金)の2日間にわたり、東京都千代田区の灘尾ホールにて全国児童委員・主任児童委員活動研修会が開催されました 。本県からも白岡市民児協の矢島静江会長と川口市民児協の岡田真理子委員が参加し、子どもたちを取り巻く現状や今後の支援について学びを深めました。

**研修会報告**

**【1日目】** 初日は、こども家庭庁による行政説明「こども施策の動向と児童委員、主任児童委員への期待」から始まりました 。説明では、国の「こどもの未来戦略『加速化プラン』」の要点などが示され、子ども施策が予防的な支援と地域連携を軸に進められていること、そして私たち委員への期待の高さが語られました 。

続いて、聖隷クリストファー大学の泉谷朋子准教授による「主任児童委員制度創設30周年を経た主任児童委員のさらなる活動推進に向けて」と題した講義が行われました 。制度の節目にあたり、今後の活動の重点や、児童委員・主任児童委員を支える取り組みについて改めて学ぶ機会となりました 。

午後のパネルディスカッションでは、「地域における子どもが安心できる居場所づくりとは」をテーマに、大学教授や現場で活動する民生委員協議会会長、主任児童委員が登壇しました 。各地域での学校・教育現場との連携や効果的な支援、居場所づくりの現状と課題について活発な意見が交わされ、地域ぐるみでの支援体制の構築と、その中で委員が果たす役割の重要性への理解を深めました 。夜には交流会も開催され、他地域の委員と課題を共有する貴重な時間となりました 。

**【2日目】** 2日目は、参加者が「児童委員」と「主任児童委員」の2つのプログラムに分かれて、グループワーク形式の分科会に臨みました 。

それぞれの分科会では、教育機関をはじめとする関係機関との連携の現状や課題、各地の特色ある実践例などを共有しました 。参加者からは、子ども食堂や学習支援が子どもの安心できる「居場所」として機能している事例や、支援が届きにくい家庭に対し、相手の尊厳を守りながら自然な交流を重ねて信頼を築く工夫などが紹介されました 。これらの共有事項をもとに、課題解決に向けた具体的な取り組みについて、参加者同士で熱心な討議が行われました 。

この2日間の研修を通じて、全国の仲間と共に学び、語り合う中で、私たち一人ひとりの活動が地域の子どもたちの未来を支える大きな力になることを改めて実感しました。

**【2ページ目】**

**研修に参加して ～学びと今後の活動への思い～**

**川口市 主任児童委員　岡田 真理子**

**【学んだこと】**

昨年度、主任児童委員制度が30周年を迎えたことを機に、改めて児童委員・主任児童委員の果たす役割、活動、連携が地域においていかに重要であるかを再認識しました 。多様な人々が関わり合いながら、世代を超えた交流の場を作ることが、一人ひとりの暮らしと生きがいを高める地域づくりに必要であると学びました 。グループ討議では、各地域の教育機関との連携における現状や課題を共有し、今後の活動の参考となる具体的な活動事例を知ることができ、大変有意義な機会となりました 。

**【伝えたいこと】**

今後、子ども・子育て家庭を取り巻く環境が複雑化する中で、児童委員と主任児童委員が連携・協力していくケースはますます多くなると思います 。課題を抱える親子を早期に発見し、つなぎ、支えると共に、一方的な支援にならないよう、子どもや若者、子育て世帯の声を聴き、私たちが代弁者となることも大切です 。私たちの活動は、やりがいと共に心身の負担を感じることもあるかもしれません。決して無理をせず、ご自身の心が休まる居場所も大切にしながら、活動を続けていきましょう 。

**白岡市民児協 会長　矢島 静江**

**【学んだこと】**

国のこども施策が、問題が深刻化する前の「予防的支援」と「地域連携」を軸に進められていることを確認しました 。特に、学校等の教育現場と日頃から情報を共有しておくことが、子どもの変化を早期に捉える上で非常に重要であると強調されていました 。また、支援が届きにくいご家庭には、相手の尊厳を守るさりげない接触が有効であり、日常の自然な交流が信頼構築に繋がるという具体的な工夫も学ぶことができました 。日常的な見守りの積み重ねが、子どもの安心に繋がることを実感しました 。

**【伝えたいこと】**

児童委員の活動は、地域の「目」となり「つなぎ役」として、日常の小さな気づきを大切にすることが基盤であると改めて実感しました 。課題を一人で抱え込まず、学校や自治体、地域の様々な団体と連携して「チームで支える」という視点が不可欠です 。今後は、研修で学んだ事例を参考に、若い世代や保護者にも届くようSNSを活用するなど、より柔軟な情報発信も必要だと感じています 。無理なく続けられる支援を地域全体で広げ、子どもたちが安心して暮らせるよう、その役割を丁寧に果たしていきたいと思います 。